

創立70周年記念事業 2019年度香川大学危機管理シンポジウム 報告

- ◆ 日 程:2019年12月5日(木) 13時~16時45分
- ◆ 開 催 地:サンポートホール高松 4階 第1小ホール
- ◆ 活動形態:主催
- ◆ 参 加 者:約190名
- ◆ プログラム:
 1. 主催者挨拶
 - ・ 笥 善行 香川大学長
 2. 来賓挨拶
 - ・ 野本 粹浩 国土交通省四国地方整備局統括防災官
 - ・ 土岐 敦史 香川県危機管理総局長
 - ・ 加藤 昭彦 高松市副市長(危機管理監)
 3. 機構の活動状況報告
 - ・ 金田 義行 地域強靱化研究センター長 特任教授
 4. 基調講演
 - ・ 阪本 真由美 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授
(香川大学客員教授)
 5. パネルディスカッション
 - ◇ コーディネーター
 - ・ 白木 渡 危機管理先端教育研究センター長 特任教授
 - ◇ パネリスト
 - ・ 土岐 敦史 香川県危機管理総局長
 - ・ 加藤 昭彦 高松市副市長(危機管理監)
 - ・ 白川 晴司 観音寺市長
 - ・ 大山 茂樹 さぬき市長
 - ・ 川西 基雄 社会福祉法人香川県社会福祉協議会 副会長



挨拶: 笥学長

◆ 概 要:

今年度は、香川大学の創立70周年記念事業の一環として危機管理シンポジウムを開催しました。マグニチュード8~9クラスの南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率は「70%~80%」と高まっており、いつ発生してもおかしくない状況にあると同時に、今年の3月に内閣府から「南海トラフの多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン」が公表されたことを踏まえ、「南海トラフ地震臨時情報」への備えをテーマにシンポジウムを開催しました。

はじめに、主催者を代表して笥香川大学長が挨拶、続いて来賓である野本四国地方整備局統括防災官、土岐香川県危機管理総局長、加藤高松市副市長から、それぞれご挨拶を頂きました。

続いて、金田地域強靱化研究センター長から「機構の活動状況報告」として今年度の重点実施項目である「教育・研究拠点機構の充実強化、突発災害調査研究体制の整備」、「四国防災・危機管理プログラムの充実及び実施体制の強化」、「大規模広域災害発生時の四国の学術拠点機能の充実・強化施策」等の実施状況についてご報告させて頂きました。

基調講演では、南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループの委員でいらした兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授 阪本真由美 氏に「女性の視点を活かした

災害に強い地域づくり」と題してご講演頂きました。阪本先生からは、「ひとたび大規模な災害が発生すると、避難所では食事の準備やトイレ掃除など女性に負担が集中する。避難所運営は人間関係の調整や苦情処理対応が大半である。女性(母親)は自分より家族を優先するあまり、ストレスを蓄積してしまう。男性主体の避難所運営では、女性の困り事(着替える場所がない、トイレが男女一緒、洗濯ができない、洗濯物を干すスペースがない、授乳やオムツ替えのスペースがない等)は気付かれない。従って、平時のときから地域防災組織への女性の参画率を高め、女性の視点を地区防災計画に反映させておくことが重要である。そのためには、女性の参加率を高めるキーワード(楽しい／おしゃれ／役に立つ／お得／安心／みんなやっている)を参考にしつつ、女性が参加しやすい工夫が欠かせない。」等についてご講演頂きました。

パネルディスカッションでは、「一人ひとりの命と生活を守るために」をテーマに、危機管理先端教育研究センター長である白木特任教授がコーディネーターとなり、パネリストとしては、再び土岐総局長と加藤副市長(危機管理監)にご登壇いただくとともに、白川観音寺市長、大山さぬき市長、川西香川県社会福祉協議会副会長に加わって頂き、「南海トラフ地震臨時情報」への備え」に関して、以下の2つの論点についてディスカッションして頂きました。

論点①: 「南海トラフ地震臨時情報」が発令された場合の対応について、一人ひとりの命と生活を守るための行政等の役割と課題

論点②: 巨大地震警戒対応期間(1週間)内に発災しなかった場合の備えや留意事項について

まず論点①では、白木コーディネーターから今年3月に内閣府が公表した国のガイドラインの概要に続き、土岐総局長から香川県の対応方針(9月公表)の概要説明がなされた後、加藤氏、白川氏、大山氏から地域防災計画の策定に向けた動き、更には川西氏から現在の福祉施設での対応状況を踏まえてのご意見を頂きました。

論点②では、各パネリストから、警戒対応期間が過ぎたからといっても巨大地震発生リスクが無くなったわけではなく、引き続き備えることの重要性に関するご意見を頂きました。

最後に香川大学、吉田機構長から、いくら社会インフラの整備を進めても、想定を超える事態は起こり得るとの認識のもと、最後の砦は住民個々の意識にかかっている旨の閉会の挨拶をさせて頂きました。香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構では、今後も引き続き活動成果を地域に還元し、地域の安全安心の維持向上に寄与して参りたいと考えております。



挨拶:野本統括防災官



基調講演:阪本准教授



パネルディスカッション



シンポジウムの様子